

平成30年度 学校評議員会 会議より

【学校評議員会（6月25日・3月5日開催 及び年間を通じての提言）より】

○ユニバーサルデザインの考え方やそれを学校教育目標に取り入れていること、また、学校全体で取り組んでいることはたいへんよい。

○会社でも上司の指示伝達がうまくできないということが社会人の中でもある。「何度言ったらわかるのか。」ではなく、見通しや段取りをわかりやすく示す工夫は他の子や人にとっても助かることである。障がいがあるという人だけを対象とするのではない。ユニバーサルデザインの取り組みは大変良い。

○情報交換や情報の共有は大切であるから、本校でのチームとしての取り組みはよい。

○「大阪北部地震」での対応について

災害はその場その場の判断が大切である。本校が登校児童を学級に入れた後先生が各教室にいて安全確認された行動はその時の判断でよいと思う。

○単に、人数が多いから良い、少ないから良くないということではなく、少人数の学校の良さと弱みをよく分析して取り組むことが大切である。少人数だからこそできることがある。集団づくりの工夫もできる。

○学力向上の「自主勉強ノート」の取り組みについて

大学生になっても受け身の学生が多い。自学自習ノートの取り組みは、主体的に世の中を生きていく「生きる力」にもつながる。

○「学校支援地域本部」の取り組みについて

組織図をみても、色々な方が本校に関わっていることがわかる。地域の人目があることで、子供たちも先生方も日々の生活の中に地域の目を感じることができていたのではないか。このように第三者の評価を受けていることは学校運営の中でもプラスにはたらくと考える。

○大阪府唯一の村の郷土にちなんだ教育をもっと取り入れて頂きたい。楠木正成や千早城跡の歴史など歴史に関する学習や村の自然を生かした学習などで児童にもっと千早赤阪村について知ってもらいたい。

○学校のホームページを拝見していると充実している。

○学校支援地域本部や学校ボランティア活動の様子をうかがうと、地域に信頼されている学校だからこそその活動だと思われる。今後もより一層の充実を求める。

○学べたことの楽しみこそが楽しい授業につながる。活動があるけれど学びがないという授業をする学校もあると聞く。授業についてはこのように考える。